平成15年度施政方針

市民が豊かな心で幸福に暮らせる ふるさと白石を目指して

第339回白石市議会定例会が、2月17日から3月6日までの日程で開かれました。

今回の議案は、各種条例の制定や一部改正、平成15年度一般会計および特別会計、水道事業会計の当初予算など計28件で、すべて原案のとおり同意、可決されました。

市議会開会日の2月17日、川井市長から平成15年度を迎えるにあたり、施政方針が表明されましたのでお知らせいたします。

キーワードは
健康・福祉・環境・生涯学習・IT

21世紀も3年目を迎え、国際情勢は混迷を深めており、経済面においても一層不透明感を増してきております。

国内においては、供給過剰による消費者物価の継続的下落、企業のリストラや収益の悪化による失業率の増大など、日本経済が低迷を続ける中、デフレスパイラルのショックが明確になりつつあります。

そうした状況の中、当市においては昨年までに、市内中心部を包み込む道路としての第一次循環線が完成し、その内側には白石城を核として古典芸能伝承の館や武家屋敷など、伝統的な城下町にふさわしい施設を配すると同時に、その外側に市街地全域を包含する第二次循環線として都市計画道路「沖の沢郡山線」の整備を進めており、ここにワークショップなどによる市民の意志を反映させた、公立刈田綜合病院、福祉の里、ホワイトキューブなどの現代建築を積極的に配置してまいりました。これまで「まち」全体を一つとして捉え、城下町の町並みと現代建築の調和という、統一した理念の下に進めてきたまちづくりが、デダロ・ミノス国際建築スポンサー賞受賞という国際的評価を得る段階まで来ました。

今後は、これらのハードを拠点としながら、白石が持っている自然環境、歴史、文化、伝統などの財産を活かし、育てていくソフト事業の推進をさらに高めて、市政運営の基本であります、「健康・福祉都市」、「環境都市」、「生涯学習都市」、「IT先端都市」の実現を目指し、市民が豊かな心で幸福に暮らせるふるさと白石のまちづくりを全力で進めてまいります。

IT（情報技術）

初めに、本年4月に実施される電子投票でございますが、本市においては「IT先端都市」を実現すべく、各分野におけるIT化を推進しておるところであり、選挙事務に関しましても、情報化の進展に伴い、事務の効率化・迅速化による市民サービスの向上を目指した観点から実施いたすものであります。

本市の財政運営が全国的にも高い評価を得ているのは、いち早くIT革命に対応し、イントラネットの整備を進め、行政の効率化を図ったのが大きな理由であり、この電子投票も、将来に向けてのさらなる行政効率化へのチャレンジであります。

15年度は、政府の定めたe－Japan計画のひとつの柱である総合行政ネットワーク（LGWAN）の本格運用に向けて準備を進めるとともに、引き続きアテネ塾などの開催による市民の情報リテラシー(注)の向上と、イントラネットを活用したシステムの充実に努めてまいります。

(注)リテラシー＝能力度

▲電子投票で行われる市議会議員選挙啓発のため設置した「移動模擬投票所」

環境・農林業振興

市政運営の大きな柱であります「環境都市」の実現を目指しましては、白石型デカップリングのさらなる推進が重要になってまいります。

白石型デカップリングとは、かつてヨーロッパにおいて国防上の理由から国境付近に人が生活してもらうために所得補償していたものを、環境美観や環境保全を図ることに転換してきたEU型を目指すものであります。

具体的には、米の生産調整推進事業において、団地化による実転作への支援措置として、ソバあるいはコスモス、レンゲ草の推進作物の作付け面積拡大を行い、農業所得の確保を図るとともに、景観形成による交流人口の誘引、地域活性化に資してまいります。

また、中山間地域等直接支払事業につきましても、引き続き農地の耕作放棄を防止するとともに、集落の環境整備および美化事業などを推奨してまいります。

同時に、すでに開設したポーチパーク、さらには、小原材木岩公園に復原しました検断屋敷および休憩所などを活用し、地産地消を図ることにより市民の幸せを追求していくのが、白石型デカップリングであります。

▲米の生産調整推進事業の一環として整備された「白川コスモス園」

また、平成14年度から制度化されました森林整備地域活動支援事業につきましても、森林施業計画に沿った森林保育管理などの事業を推進し、本制度の目的である森林の育成に努め、環境保全および国土保全に努めてまいります。

生ごみ資源化事業所については、2月より実際に生ごみの処理を行う試験運転を経て、4月から本格稼働を実施することとしておりますが、本施設の利活用によって、環境への負荷軽減、ごみの減量化を進めるとともに、隣接しております農業用ハウスを活用した、小中学校による農作業体験授業、あるいは親と子のふれあい農園として利用し、食料、資源、環境に対する意識の高揚をはかり、循環型社会の構築を目指してまいります。

また、果樹、野菜などの園芸作物の振興、柿の里構想の継続など、積極的支援を講じてまいります。

農業集落環境の保全と整備につきましては、農道斎川板木線の改良工事を継続実施するとともに、郡山、祢宜内、小下倉地区にかかる水路改修事業についても、早期完成に向け鋭意努力してまいります。

さらに、越河地区農業集落排水事業は、平成19年度の供用開始を目指して、平成15年度は、越河五賀地区を中心に、事業費約3億5千万円で工事に着手してまいります。

15年度も温室効果ガスの削減に取り組み、今後もごみの減量化とリサイクルを図るため、市民および事業者の理解と協力のもとに、従来の分別収集に加え、ビンの色別分別収集を推進してまいります。

▲4月から本格稼働する生ごみ資源化事業所「シリウス」（福岡長袋）